

『 雄国沼湿原木道敷設工事における利用状況 』

【目的】

平成22年秋から冬にかけて行なわれた湿原の木道敷設工事が植生にどのような影響を及ぼすか、また踏み跡等の回復状況から今後の施設保全作業及び自然保護活動の基礎的な資料として活用する情報の収集を目的とする。

【結果】

- (1) 踏み跡でも泥の比較的浅い部分は6月16日の観察で芽生えを見る事が出来たが泥の深い所では芽生えを確認出来なかった。
- (2) 泥の深い踏み跡では秋になっても植物の芽生えは見られず土壌環境によっては大きなダメージとなっている事がわかる。
- (3) 10月11日には泥の浅い部分に10から15センチ位の草が伸びている。
- (4) 湿原の入口から100メートル程進んだ木道左側に群生していた貴重種のホロムイチゴが確認出来ていない、今後の継続調査が必要。

【考察】

- (1) 敷設工事の小さな残材が多く確認されたが降雪により最終確認時の見落としが有った物と思われる。
- (2) 泥の深い部分には春から油膜状の物が確認されたが、秋には若干薄くなっており工事機器のオイルではなく腐泥による現象と思われる。
- (3) 泥の深い部分の植生回復が今後どの様に推移するか継続調査が必要。
- (4) 植生に大きな影響を与える本工事の様な大規模土木工事は事前の影響調査を行い、貴重種の保護対策や養生方法の徹底など専門的な見地から施工業者の選定、工事指導など徹底する必要があると考えます。

【概要】

- (1) 調査日・担当者

平成23年5月7日(土) 6月15日(水) 7月8日(金)

平野 恭弘 自然公園指導員

平成23年10月7日(土)

荒井 勇 福島県自然保護指導員

【反省】

- (1) 土壌環境ごとに区分を定め、区分ごと複数の定点観察を実施した方がよかった。
(区分例・・・①比較的乾燥地 ②泥の浅い湿地 ③泥の深い湿地)
- (2) 担当者が途中引き継ぎと成り8月、9月の調査が出来なかった。